



# 令和2年 6月の園だより



## いのちとのふれあいの中で

日中は気温が高くなることが多く、初夏を感じる頃となりました。熱中症対策を取りながら戸外での活動がしっかり楽しめるようにしていきたいと思えます。

さて、緊急事態宣言の解除に伴い、登園自粛期間が終了となりました。自粛期間中には不安やストレスを感じられることなど、いろいろなご苦勞もあつたと思いますが、家族とゆっくりかかわることで子どもたちは、心地よい時間が過ごせたことと思えます。ご協力ありがとうございました。

今月からまた、保育園に子どもたちの元気な声が響くことでしょう。しかし、感染の第二波が来ることも予想され、まだ安心はできません。感染症予防対策は保育園でも引き続き丁寧に行いますので、保護者の皆さまにも、登園時の検温、手指消毒やマスクの着用(園外保育や運動をするときには熱中症予防対策として外します)のご協力を引き続きお願いいたします。

見通しがつきにくい状況ですが、年間の行事に関しましては、行事を経験する中で、子どもたちの成長した姿を見ていただく機会でもありますので、時期や規模などの調整をしながら慎重にすすめていきたいと考えています。

また、新たに保育園生活が無理なくスタートできるように、一人ひとりの子どもたちの気持ちに寄り添っていききたいと思えます。お子さんの様子で気になることがありましたら、お声掛けください。子どもたちがやってみたいあそびを選んだり、夢中になれる環境づくりに取り組み、安全に安心して過ごせるようにしていきます。

先日、坂みみょう保育園より、カブト虫の幼虫がやってきました。子どもたちの目の前で幼虫を土の中から出し、少しの間、観察をしました。幼虫を見て「カラフル～」と大人が思いつかないような表現で、感じたことを伝える子や「お腹が三角になつと

るのがオスなんよ」と虫博士のように語る子がいたり、子どもたちは生き物に触れることで、より興味関心が深まります。生き物のことを観察するうちに、「どんなもの食べるのかな」など知りたいことを図鑑などで調べる姿を目にすることがあります。図鑑を見ても、虫の名前がわからないと、「スマホで、この虫の写真撮って「この虫の名前は？」って聞いたらいいんじゃない」と提案する子がいました。ひとつの方法だけでなく、別の方法を考え、切り替えていこうとすることに感心しました。すぐに諦めるのではなく、根気強く取り組む力は、どうやったら身につくのでしょうか。大人が知っていることをすぐに教えるのではなく、子どもが自ら調べたり、考えたりできる環境を準備することが大切になります。子どもたちの話に耳を傾け、うなづきながら、子どもがやってみようとするのを支えていくことで、子どもが自分で考え、工夫し、見通しを持って行動する力へとつながっていきます。

飼育ケースの中にいるカブト虫に「かけますよ」と優しく声をかけながら、霧吹きで水をかけ、毎日お世話をしている年長児。生き物の世話をしながら、命に触れる体験の中で、お世話をすることが命を守ることにつながることを知り、自分と他者の命についても考えることができるようになってほしいと思えます。

梅雨期に入ると、雨の降る日が多くなってきます。園庭のプランターに植えた野菜の苗や花の種は雨の力ももらって、ぐんぐん生長していきます。その姿を通して雨の役割を考えたり、雨の日の特別な過ごし方を発見しながら、子どもたちと一緒にあそびが広がったり、つながったりすることを楽しんでいきたいと思えます。「今日もたのしかったね」「明日もこれやりたいね」というつぶやきをたくさん聞きたいと思えます。

園長

## ようちゅうさんよろしくね



土が乾かないように・・・と日課になっています

からふる～

かけますよー

## 百野菜を育てています



野菜を育てるには手間も時間もかかります。地域の方も気にかけてくださっています。そうやって育てた野菜は特別な味がするのかな

土作りから一緒に・・・



## 歯を大切にしよう!



『6月4日～10日は歯の衛生週間』です。

子どもたちの歯を虫歯から守りましょう!

- \* 丈夫な歯で、よくかんで食べることは、健康なからだをつくる上でとても大切なことです。虫歯にならないように歯磨きをしましょう!それでも虫歯になったら早めの治療をしてあげてください。
- \* 歯のはたらき
  - ・食べ物を噛み消化を助ける
  - ・ことばが正しく発音できるよう助ける
  - ・顔の形を整え、あごの発育を助け、かむことで脳の発達を促す
  - ・永久歯が正しく生えかわるときの場所のガイドになる

## じめじめ じとじと いよいよ 梅雨 入り!



「梅雨」と書いて「つゆ」と読む初夏の長雨。中国の長江(揚子江)流域で梅の実が熟す頃の雨を「梅雨(メイウ)」と呼び、それが日本に伝わったと言われています。「つゆ」と読むようになったのは江戸時代のこと。その起源は「露」の連想であるとか、梅の実が熟してつぶれる「漬ゆ(ついゆ)」からきているなどの説があります。また、西日本と東日本では「梅雨」の性格が違います。西日本ではダイナミックな「ラテン系」とでもいうか、熱帯地方の「スコール」のような激しい雨が降り、「陽性梅雨」と呼ばれています。一方、東日本ではより「日本的」「情緒的」なしとしとと降ったり止んだりの雨で、「陰性梅雨」と呼ばれています。小さな島国の日本の雨にもこんな違いがあるのです。～和の行事ブックより～

## お散歩に行ってみると・・・

新園舎・・・着々と完成に近づいていますよ

